

『形成外科』誌を面白く，学びある場に —新編集委員長より—

本誌は，1958（昭和33）年に季刊（年4回刊行）の学術誌として、『形成美容外科』という誌名で始まりました。1冊の価格は300円で，まだ形成外科という診療科名が存在せず，わが国に形成外科医がいない時代のことです。編集者代表は東京大学整形外科教授の三木威勇治先生で，発行所は当初から克誠堂出版でした。第1巻第1号の最初の論文は，岡山大学整形外科の児玉俊夫先生執筆の「皮膚縫合法の検討」で，眼科，耳鼻科，皮膚科，口腔外科などさまざまな専門家による論文が誌面を彩っていました。

1958年秋の研究会総会で行われた投票により日本形成外科学会という学会名が決定し，これは形成外科という診療科名にもつながります。日本形成外科学会が設立されると，本誌は1959年の『形成美容外科』第2巻から日本形成外科学会の準機関誌となりました。1962年の第5巻より誌名が『形成外科』という現在まで続く名に変更されます。その後，1970年の第13巻より隔月刊行となり，1974年には日本形成外科学会に編集権を委譲して同学会の機関誌となりました。

1981年，日本形成外科学会が新たに『日本形成外科学会誌』を発刊することとなり，本誌は臨床的商業学術誌として再出発しています。1980年の第23巻に学会総会議事録が発言者の名前も含めて細かく記載されており，『日本形成外科学会誌』の発刊や本誌の今後の在り方など，熱い議論が交わされた様子が読み取れます。本誌はその後，毎号特集テーマを決めて原稿を集めるようになり，毎年臨時特集号（現増刊号）を発行し，さらに1988年から

は月刊誌となり現在に至っております。

こうしてその歴史をたどってみると，本誌は形成外科という診療科がわが国に誕生する前から現在に至るまで，日本で形成外科を志し，根付かせ，発展させ，社会に貢献しようとする幾多の専門家たちとともに歩んできたといえるでしょう。

本誌は小劇場のような場であると感じております。毎月，公開する劇に出演する優れた俳優を呼び，自由な題名でオーディションを受けに来る次世代の才能のパフォーマンスを評価して良いものを公開し，自由度の高い多彩な形での公演を披露する場です。本誌は学術誌ではありますが商業誌でもあり，形式にこだわり過ぎずに企画を立てていきたいと思います。そのために，自由な発想での誌面企画，原稿，絵や写真などの素材を，もちろん倫理的配慮は必要ですが，遠慮なく編集部にもちかけていただきたいです。

この度，『形成外科』という学術劇場の座長をお受けいたしました。

この劇場の場は，日本じゅうの形成外科にかかわる皆さまのためにあります。面白くないと皆は集まりません。集まっても学ぶことがないと皆は続けて来てはくれません。たくさんの皆さまに，演技をするため，演技を観るため，交流のために集まって，この劇場を使ってもらいたいと思っています。

面白く，学べる，執筆者と読者の場を，『形成外科』に展開したいと思います。

2025（令和7）年1月
本誌編集委員長 杠 俊介